

学校概要

創立	5周年	学校長 地口 朝美	副校長 岡部 一郎	学期	2 学期制	児童・生徒数	641人
学級数 一般級: 20 個別支援級: 4				主な関係校: 左近山中学校・本宿中学校			

学校教育目標

夢中がいっぱい左近山の子 ～仲間とともに まちとともに 未来とともに～【左近山小ブランド「自分の学校に 誇りと愛着をもつ」】
 知: 自ら課題を見付け、進んで学び、課題解決に向けて粘り強く取り組む子を育てます。
 徳: 相手の気持ちを考えて、きまりを守って行動できる子を育てます。
 体: すべてのいのちを大切に、健やかな生活を心掛ける子を育てます。
 公: まちに進んで親しみ、地域の一員として生活する子を育てます。
 開: 変化する社会の中でコミュニケーションを大切にしながら視野を広げ、自分らしく生きる子を育てます。

学校の特徴

□平成25年4月、児童の教育環境の維持・向上を図るために、左近山の3校が統合し、左近山小として開校した。新設校であるため、教職員の学校づくりへの参画意識が高く、校内研などにも熱心に取り組む。
 □校内研で生活科と総合的な学習の時間を、創立後3年間推進したことで、児童の学習への興味関心が向上した。
 □西部地区の通級指導教室が併設され、個別支援学級の児童在籍数(36名)が多いことで、教職員の特別支援教育への意識が高く、児童一人ひとりに応じた支援・指導が丁寧である。
 ■困難な課題への追究意識が低く、自分の思いを十分に表現できない子が多い。

学校経営中期取組目標

教職員自らが主体的、協働的に取り組み、同僚性を高めながら、自分の学校と地域に誇りと愛着をもつ児童を育成する。
 ・学習に対する興味関心を高め基礎・基本的な学習内容の定着を図り思考力、判断力、表現力、活用力を育成する課題解決学習を推進する。
 ・基本的生活習慣を身に付け、望ましい人間関係づくりや学級集団づくりをする。
 ・児童一人ひとりが運動に親しみ、楽しさや喜びを味わえる活動を進め、健康で安全な生活態度を育成する。
 ・学校行事や授業等に家庭・地域のマンパワーを活用することで、児童が地域のよさに気付き、地域の一員として進んで活動に参加する。
 ・地域や様々な人々とのかわり合い体験から、社会の変化に適應できるしなやかな心と生活しやすい地域を創りだす力を育成する。

小中一貫教育の取組

左近山中	ブロック	仲間とともに学ぶ姿勢と学習習慣の確立
9年間で育てる子ども像	仲間とともに学ぶ姿勢と学習習慣の確立	
自校の具体的取組	教育課程、学習習慣など9年間を通して、系統性をもった指導を進める。 ・日頃から運動に親しむ活動の工夫や授業交流、部活動体験などによる運動の習慣化を進める。 ・食育の充実による健康づくりへの積極的な態度を養い、日々の生活における実践力を向上させる。 ・授業交流を年2回以上実施する。	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	「学び合い」を大切に、基礎・基本的内容の確実な定着を図り、課題を追究し、主体的に問題を解決することで思考力・判断力・表現力を育成する。	①学力・学習状況調査の活用による学校の課題の明確化と対策の実行。②ノート、学習カード記入による思考力・判断力・表現力の育成と、学習の成果の確認。③少人数指導やTT指導、特別支援教室(わかば教室)による個に応じた指導の充実。④発達段階に配慮した家庭学習の推進と習慣化
豊かな心	子どもの人との関わりから課題を明確にし、道徳の時間や縦割り活動などの異学年交流を中心とし、教育活動全体を通して豊かな心を育成する。	①仲間との体験や感動を共有できる活動の意図的・計画的な実施。②相手の立場を尊重する意識づくりと実践。③一人ひとりの基礎的自尊感情の向上。④当番活動、係活動など全教育活動を通しての居場所づくり、絆づくりの推進。
健やかな体	進んで運動に親しみ、仲間とともに運動する楽しさや喜びを味わう経験をしたり、食の大切さを理解したりして健康で安全な生活を目指す態度を育成する。	①一人ひとりの目標や発達段階を考慮した系統的指導。②フレッシュモーニングタイム(早朝自主参加持久走)、特別スポーツクラブ(希望制)、体力アップ(週1回ペア学年による運動)、鬼ごっこゾーン設置(業間休みの遊びの工夫)など運動に親しむ環境整備。③いのちの大切さや安全指導を徹底するための学級活動や保健指導の充実。
特別支援教育	各学級の要配慮児童及び個別支援学級児童一人ひとりの実態に応じた適切な支援・指導を推進する。	①要配慮児童についての学年、全校での情報共有及び学習環境整備や特別支援教室の活用。②教育支援隊や学習支援員等ボランティアの活用及びサポート非常勤や関係機関との連携。③個別的教育支援計画・指導計画に基づく保護者と連携した支援・指導。④通級指導教室との連携及び職員研修による資質向上。
児童生徒指導	一人ひとりの存在感が認められ、活躍の場や居場所のある学級や信頼される学校づくりを進める。	①自己肯定感を育成する学習の場や活動の場づくり。②課題に対する早期対応、継続的・組織的な対応、関係機関との連携。③児童や教師、保護者の共通理解のもと実践する「めざそう左近山の子」(8つの心得)の徹底。④研修や情報交換、ケース会議等による児童理解力、課題解決力、教育相談力の向上。
教育課程	主体的、協働的な学習活動の中で、伝え合う力の育成を図り、身に付けたい力を自覚できる学習を進める。【重点研究: 国語】	①身に付けたい力を明確にした言語活動に重点を置いた主体的・協働的な学習活動。②「書くこと」「話すこと」「聞くこと」に重点を置いた言語的な活動の充実。③校内研を中心にした授業交流による授業力の向上。④基礎基本の定着だけではなく発展的な学習の充実。
保護者・地域連携	子どもが地域の一員として地域に親しみ、大切にすることをもち、発展を願い、地域の「人」「もの」「こと」とかかわって行動する子を育成する。	①授業や行事において、地域の材やマンパワーの積極的活用。②学校防犯や交通安全指導における保護者や地域からの支援及び協力要請。③学校行事や「学校ひらく週間」等への保護者・地域の積極的な参加及び参画。④教職員や児童の地域行事への積極的な参加。
いじめへの対応	児童一人ひとりの個性を生かした環境調整をし力を発揮できるようにすることで、自己肯定感を育成し、自分の行動に対して正しく判断できる力を育成する。	①個性が尊重され、誰もが認められる学級づくり。②日々の児童観察及びチャンス相談、定期的な児童教育相談の実施による児童のSOSの把握。③仲間の許せない行動への働きかけや傍観者として果たす役割について、学級の共通理解と振り返り。
人材育成・組織運営	教職員一人ひとりの資質・能力を把握し、適材適所に配置した校務における実践力を育成する。	①ミドルリーダーである学年主任、校務分掌主任としての目標を明確にした実践と、成果や課題を継続的に評価し、改善しながらのマネジメント力の育成。②メンターチームによる教科指導や学級経営の資質向上等の研修及び学校運営への積極的な参画